

江別市高齢者クラブ連合会



江 高 連 だ よ り

れんたい

第 42 号 (通算 54 号) 平成 20 年 3 月 3 日発行

支えあい ひとりの心 みんなの力

平成 19 年度 江高連の行事实施状況

平成 20 年 2 月

行事など	実施月日	概 要
定期総会	5 月 9 日	野幌公民館、出席者 120 名、来賓（三好昇新市長ご挨拶）
女性のつどい	5 月 29 日	野幌公民館、出席 145 名、
第 36 回大運動会	7 月 11 日	市民体育館、参加者 クラブ、780 人（役員含め 800 名）、野幌中央寿倶楽部が連覇
女性部ボーリング大会	8 月 27 日	原始林ボーリングセンター
第 35 回演芸大会	9 月 4 日	市民会館大ホール、38 組、約 100 名の出演 観客のべ 1,000 名
健康コンクール	9 月 4 日	演芸大会に先立ち表彰式
いきいきシニアスクール	9 月 10 日	福祉センター、60 名参加 「年金の仕組み等について」 （社会保険労務士・千田都茂美氏）
第 23 回ゲートボール大会	9 月 14 日	泉の沼コート、参加 12 チーム、選手・役員約 90 名 優勝は寿 A チーム
全国一斉社会奉仕の日	9 月 20 日	40 クラブ、のべ 3,215 名が参加（参加日は年間を通して）
石狩管内小ブロック研修会	10 月 19 日	参加者 14 名、千歳市老連が主管、 工藤副会長が「わがマチのクラブ連合会の現状と 当面の課題」と題して実践発表
親睦研修旅行	10 月 25～26 日	参加者 45 名、洞爺湖温泉
単位クラブリーダー研修会	11 月 6 日	野幌公民館・視聴覚教室、講師池永和親先生「上手な医者のかかり方」 参加者 75 名
体力測定	11 月 13 日	市民体育館、参加者 72 名
こども文化祭協賛	11 月 11 日	大麻えぼあホール
新年交礼会	1 月 16 日	野幌公民館、120 名が参加
女性部の友愛活動	毎月第 3 水曜	福祉センターにて、絵たよりを描き、市内在住の独居高齢者に贈る活動で、毎回約 30 名が参加、午後はカラオケ、カルタ取りなどを楽しんでいる。
広報活動	4～3 月	ミニ通信「はつらつ」毎月発行 江高連だより「れんたい」年 1 回発行

江高連、この1年

総会、女性のつどい



生き甲斐と健康づくり
支え合う仲間づくり
地域活動を通して
交流の輪を広げよう
と呼びかける森田会長のご挨拶
(5月9日、野幌公民館)



毎年、150名を突破する文字通り「女性のつどい」
講演の後は大きく輪になって交通安全音頭です
(5月29日、野幌公民館)

江高連、この1年

大運動会



この笑顔！ 笑顔！
よめ探し、むこ探しが
あるから運動会は楽しい

チームワークがものを言う
ボール送り
抱きしめてないで
早く送ってね



交通安全音頭とかけて
ダルビッシュ投手と解く
そのころは？
18番（おはこ）だから

江高連、この1年

ゲートボール



針の穴?を通せといわれても…



二連覇でしたね



視線の先は…



赤とんぼも祝福



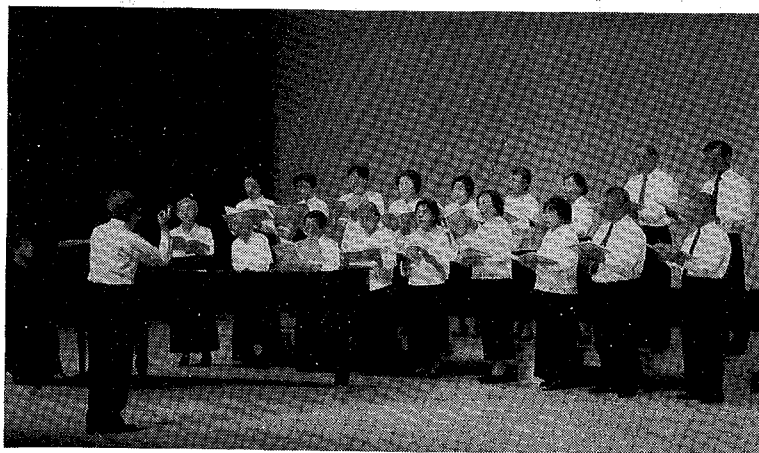
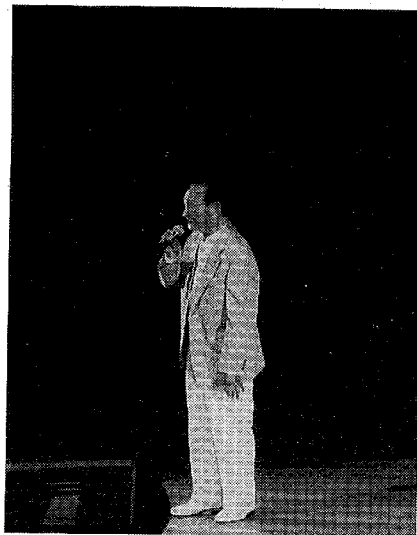
緑陰の昼食も泉の沼コートの魅力

江高連、この1年

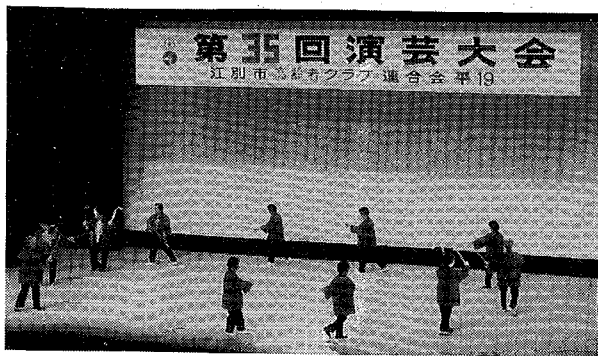
大演芸会

カラオケは贅沢？
舞踊やコーラスなら
10人でも20人でも
出られるのに…
でも、有無を言わせない

迫力でした



大ホール、大観衆を前にして歌う…最高です



真っ赤なそろいの半纏
カラーで
お見せしたかった

江高連、この1年

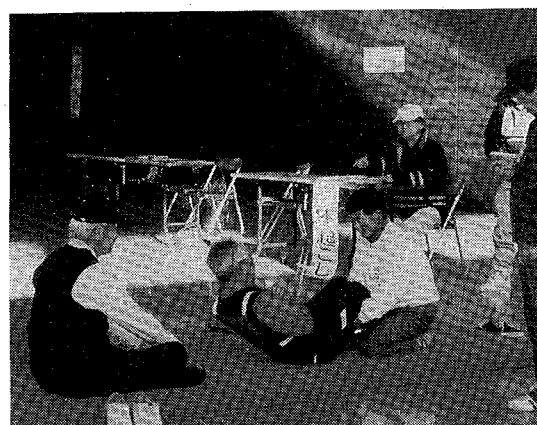
体力測定



全員、先ず、血圧をはかってから



平均点の高かった開眼片足立ち



この腹筋！ケガをしないからだを支える原動力です



握力を測る！ 背番号1と3といえ

よかった 困った こうしてほしい…

新会長さんに聞きました

江高連所属の単位クラブ六十四のうち、今年度は十一クラブから新しい会長さんが生まれました。その後、会長さんの急逝という不幸により、新会長と会長代理がそれぞれお一人ずつ誕生しました。

そんな方々に、年末年始の時期にあたり、これまでを振り返って、よかったこと、困ったこと、こうしたらどうかという提言などを、お聞きしてみました。暮れに文書をお出し、年明けに電話にてお話を聞きしました。

クラブの運営に際して、よそはどうか、という関心に少しでもお応えできれば幸いと思います。参考になること、刺激を受けることがあれば、こんな企画を思い立った努力が無駄ではなかったということになります。

よかったこと

会長さんの悩みの第一は、会員が減っていくこと、新しい会員が増えないことかもしれません。そんな中で、「うちは増えている」と明るい声が返ってきたところがあります。数少ない女性会長の諏訪フミ子さんがガンバッテいる早苗クラブです。会長も役員も女性が多くなり、「ソフトさがよかったのかどうか、声かけすると、入ってくださる方が増えてきた。心がけているのは、会合が楽しく、終ってから、よかったと言われると嬉しい」とのことでした。

「パークゴルフやマージャンの仲間をつくるというかたちで会員が増えて

いる」(あさがお健康クラブ、高橋安雄会長)というのも会員をふやす一つの方法であるということが言えそうです。これはという人に声をかける正攻法で「少しは増えている」(豊幌豊寿会、笹木芳夫会長)など、日ごろからの心がけが肝心ようです。

緑町福寿会の斉藤安正会長からは「江高連のクラブをみると、ほとんど会長は男で、会員は七割ほどが女性というところが多い。その女性が役員になりたがらない」という声がありました。自治会には女性部があり、そっちの方は活発に見えるので、「交流を図ってみたい」とのこと。新しい気運が生まれるかもしれませんね。

なお、斉藤会長からは、「会員の百寿のお祝いをするのができた」「元気な人だからよかった」という声を聞きました。人中出现て行つて、刺激を受けることが高価な薬に勝ることが証明されたということでしょうか。

「社協の福祉バスを利用した日帰りの見学会が好評だった」(朝日町ほほえみ会、三上光彦会長)という声もあり



患者の視点から医療を考える…池永先生の講演
(クラブリーダー研修会より)

ました。福祉バスは、公共性、福祉の条件を満たせば、無料で利用できます。(詳しくは社会福祉協議会の福祉バス係りへ)。

困っていること

「会員が増えるのはうれしいが、若い人が入らたがらない」というのは、ほとんどの会長さんの声でもありました。

「役員をやっていると、役員手当てもあるけれど、それ以上の出費を強いられることも出てくる」。これは、お名前を出さないことにしますが、そんな切実な声もありました。役員になりたがらない人が多い理由の中には、こういうことも原因になっているのでしょうか。今後の課題として何とかいい方法を見つけるようにしていきたいものです。

朝日町ほほえみ会の三上光彦会長は永年、この会の総務係を担当されてきた方ですが、「会長になったら、総務のときより情報が入ってこなくなった」とのこと。この会のことだけなのか、他のクラブでもそういう傾向があるのか、今後の検討課題かと思えます。

連合会に望むこと

研修旅行に対して、「毎年同じようなところにいくのは困るよ」という声と、「どこでもいいから、参加して、飲んで、話して、打ち解ける大事な機会だ

から」というのはつきり分かれるお考えを聞かせていただきました。今後の運営に生かしていくつもりです。

「池永先生の講演がよかった」(三上光彦会長、高橋安雄会長、齊藤安正会長)。高齢者といわれる年齢の者が抱えている共通の切実な悩みにぴったりの話題であつたということで、こういうことは、講師の人選も大きいので、皆様のご意向に沿うべく心がけてまいります。

また、大麻北栄クラブの柏木久雄会長は、平成十八年、恵庭市で行われた石狩管内小ブロック研修会における「三分間スピーチ」(「はつらつ」で紹介)に関心を持たれ、会の運営に生かしていく方法を検討中とのことでした。なお、東大麻クラブ柏原義親会長、一番町新生クラブ東海林正明会長代理のお二方は、まだ就任早々ということで、次の機会にお聞きする予定であります。

忌悼の無いお考えをお聞かせくださった新会長さんにお礼申しあげます。

向ヶ丘ひばり会の女性有志による

いどばた会

月一回、おしゃべりを楽しむ会です

女性同士の
たのしい集まり

おしゃべりほど楽しいことがあるでしょうか。特に、女同士の場合大いに盛り上るのは、どなたにも異論のないところでしよう。そんな当たり前のことでも、相手が無くてはできません。

相手もいる、
場所もある、

それなら一つ会を作って、定期的に「おしゃべり」を楽しみましょうと、生まれたのが向ヶ丘ひばり会の「いどばた会」です。向ヶ丘ひばり会も江別市高齢者クラブ連合会の中の単位クラブで、会員総数七十八名、そのうち五十名が女性です。いどば

た会に所属する方は三十名ほど。「楽しくて、休んでなんかいけない」という声が沢山聞こえてきました。

この会ができたのは平成十四年四月です。話を切り出したのは河内カズ子さんで、河内さんは向ヶ丘ひばり会の副会長でもあります。はじめ、女性有志十一名の親睦会が「おしゃべり会」の名のもとに発足しました。三ヵ月後の六月には今の「いどばた会」に名前を改めています。改名したのは、「その方が会の実態にふさわしいから」（河内さん）。

「いどばた」は「井戸端」。かつて水道が普及する前の井戸端は、水汲みや洗濯に集まった女性の社交場でした。情報交換の場というプラス面と、噂話の行き交う週刊誌的な世界でもあるという、両面性をもっていたように思います。この「いどばた」のよさを現代に生かすことができないものでしょうか。

何よりも

人の和を大切に

「いどばた会」が、井戸端のプラス面を意識しての名づけであり、その心構えは、
○人の和を作ろう
○家庭を明るく
○諸先輩を大切に
という三つの決まりによく現れています。

会費は月百円ということでしたが、赤飯や漬物、果物、お菓子が揃っているのは、持ち寄りが多いとのことでした。

会は、当番の挨拶と連絡事項などがあり、まず会の歌を歌ってそろって声を出すことから始まるようでした。

あとは、おしゃべりが始まると、室温が一、二度は上がるのではないかと、と思われるほどの熱気です。

カラオケが出ることもあり、揃ってプリントに沿って朗読をすることもあるそうで、この日、見せていただいたのは、「親

父の小言」というもので、短いフリーズが沢山そろっています。

朝は機嫌よく

女房は早く持て

大飯を食うな

風吹きに遠出するな

こんなのはよく分かりますが、

判事は固く断れ

は分かりません。すると、九十歳過ぎの方から「ハンコは押すなっこと」と教えていただきました。



すると、「私の親はね」と、

ハンコを押して、つまり人の保証人になってエライ目に遭った話で盛り上る、という具合で、なるほど、これがいどばた会かと納得できました。

病気は大仰にしろ

は、どなたも分ならず。宿題になりました。

二人だけで盛り上っているところもあり、小声でハミングするグループもあり、実にさまざまです。

取材後、中西会長さん、総務係の鎌田さんにお礼を申し上げると、「すごいでしょ、入っていないよ」と笑っています。これは男性側からみた会の一面でしょう。でも、何だか羨ましそうですね。毎月の会合が待ち遠しいという会員のお気持ちがよくわかりました。

江高連・女性部の活動から



独り暮らしの高齢者に心を贈る…絵たよりです

市内にお住まいの独り暮らしのお仲間
に贈るために描くのが絵便りで、女
性部の友愛活動の一環として行われ
ております。

毎月第3水曜日、福祉センター2階
の和室大広間に集まって描いていま
す。現在、集まるのは30人ほどです。

ケータイ、パソコンの時代に、ゆっ
くり時間をかけたやりとりは、むしろ
ぜいたくかもしれませんね。

絵手紙午前中で終わりますが、お弁当
を開く方もあり、これがまた楽しい、
とのこと。午後は、カラオケ、カ
ルタ取り、ダンスなどに興じることが
できます。

女性部ではこの他、ご縁募金活動、
雑巾やタオルを贈る運動、共同募金や
交通安全の奉仕活動、研修活動などを
活発に行っています。

